

研究課題「レビー関連病理を超えた α -シヌクレイン病理：LRRK2 関連パーキンソン病 における α シヌクレインオリゴマーと播種活性」に関する情報公開

2026年 3月 31日

相模原病院では、下記の臨床研究を実施しており、「対象となる患者さん」に該当する方へご協力をお願いしております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合は以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名] レビー関連病理を超えた α -シヌクレイン病理：LRRK2 関連パーキンソン病 における α シヌクレインオリゴマーと播種活性

[研究責任者] 当院 脳神経内科、神経難病研究 長谷川一子

統括責任者：Mayo Clinic、Department of Neuroscience

Assistant Professor 関谷博顕

[共同研究機関と各機関責任者名]

- Dennis W. Dickson (Mayo Clinic)
- Glenda M. Halliday (University of Sydney)
- YuHong Fu (University of Sydney)
- Poul Jensen (Aarhus University)
- Nanna Jensen (Aarhus University)
- Luis Concha (Amprion Dx)

[研究の背景]

神経変性疾患や精神疾患の多くは原因不明で治療法が確立していない疾患が数多く含まれております。このうちの一部の疾患では病因となる原因遺伝子が探索されてきていますが、病態や神経細胞が変性・脱落していく要因は十分に解明されてきていない現状にあります。

[研究の目的]

本神経内科では治療の甲斐もなく亡くなった患者さんで献体していただいた患者さんについて様々な研究施設と共同研究を行っております。この度、パーキンソン病の中でも遺伝性パーキンソン病として PARK8 として知られる家系を研究することにより、パーキンソン病の発症や治療法の開発を目指した国際研究を行うこととなりました。PARK8 パーキンソニズムは PARK8 の遺伝子を決定する端緒となった家系であり、臨床的には通常の孤発性パーキンソン病との差異は明らかではありませんが神経病理学的には多彩な病像を示し、国際的にも注目されています。PARK8 は相模原家

系を報告した後、病因遺伝子である LRRK2 において沢山の病因変異遺伝子が発見され、現在遺伝性パーキンソニズムの大多数を占めるとされております。

この度の国際共同研究は PARK8 の様々な病因変異部位が明らかとされている患者さんの剖検脳によりパーキンソン病の病因のタンパク質の一つとされる α シヌクレインの病態について多施設研究を行います。これにより PARK8 のみならず孤発性パーキンソン病の発症要因、病態の解明、治療方法の開発に結びつくことを研究目標としております。なお、本研究に当たっては様々な倫理研究指針を遵守して実施いたします。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

PARK8 患者さんで、2000 年 4 月 1 日から本日までの間に治療の甲斐なく亡くなり、剖検をされた患者さんで他施設との研究参加に同意された患者さん

●研究期間： 本研究の研究実施許可日から 2027 年 3 月 31 日

●利用する検体

検体：剖検検体

カルテ情報：診断名、発症年齢、性別、罹病期間、神経所見、検査結果（血液検査、画像検査、生理検査）など

●検体や情報の管理

剖検検体や検査に必要なカルテ情報は、匿名化した後に研究する機関であるメイヨークリニックに適切な方法で提出し、検査されます。余剰した検体については剖検時にバイオバンクへの移行も許可された方については適切にメイヨークリニックで保存されます。

[研究の資金源、利益相反について]

この研究はマイケル J フォックス基金を用いて実施されます。

この研究における研究者の利益相反[※]については、当院もしくはメイヨークリニックの利益相反委員会で審査され、適切に管理されています。また、研究組織に係る研究者の利益相反については、それぞれが所属する機関において、適切に管理されています。

[※]外部との経済的な利益関係等によって、研究データの改ざん、特定企業の優遇など研究が公正かつ適切に行われていないと第三者から懸念されかねない事態のこと。

[個人情報の取扱い]

研究に利用する検体や情報には個人情報が含まれますが米国・メイヨークリニックに提出する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できる情報は削除し、研究用の番号を付けます。また、研究用の番号と故人の名前を結び付ける被験者リストを当院の研究責任者が作成し、研究参加への同意の取り消し、診療情報との照合などの目的に使用します。被験者リストは、研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

検体や情報は、当院の研究責任者及び検体や情報の提供先であるメイヨークリニックが責任をもって適切に管理いたします。

なお、アメリカにおける個人情報の保護に関する制度の情報は、以下よりご確認いただけます。

<https://www.ppc.go.jp/personalinfo/legal/kaiseihogohou/#gaikoku>

研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。

[研究の参加について]

この研究実施への参加や途中での参加中止は、故人の剖検に同意いただいた方の御意思で決められます。この研究への参加（試料（血液・組織等の検体）やカルテ等の情報を利用すること）にご協力いただけない場合は、研究責任者等又は「問い合わせ先」にご連絡いただくか研究参加拒否書に署名し、日付を記入して研究責任者等に渡してください。研究にご協力されなくても、診療等において不利益を受けることはありません。ただし、ご連絡いただいた時期によってはこの研究の結果が論文などで公表されているなどで故人のデータを取り除くことができない場合がありますことをご了承ください。

[遺伝情報の開示について]

本研究での遺伝子解析により得られる情報は探索的なものであり、疾患の診断や発症予測との関連性は不明であります。このため、本研究で得られた遺伝情報を開示することは原則的にございません。ただし、偶発的所見（二次的所見）を含め、遺伝子解析の結果が提供者や血縁者に臨床的に重要な影響を及ぼしうる明確な結果が得られた場合には、相模原病院倫理審査委員会に報告し適切に対応いたします。

[遺伝カウンセリングの必要性及びその体制]

本研究では解析結果を原則的に開示しないため遺伝カウンセリングが必要になる状況は少ないと考えられます。しかし、被検者のご家族から遺伝子カウンセリングの希望があった場合には、研究代表者もしくは剖検を取得した担当医が対応し、必要に応じて遺伝カウンセリングを提供します。

[本研究について、問い合わせ先、苦情等の受付先]

この臨床研究について知りたいことや、ご心配なことがありましたら、遠慮なくご相談ください。また、この研究にあなたご自身のデータを使用されることを希望されない方は、ご連絡ください。

○問い合わせ先

国立病院機構相模原病院 脳神経内科・臨床研究センター神経難病研究室 長谷川一子
電話 042-742-8311（代表） FAX 042-742-5314